

南極から附中へ

南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信 第25号 令和2年5月22日



○南極に挑戦した観測船たち

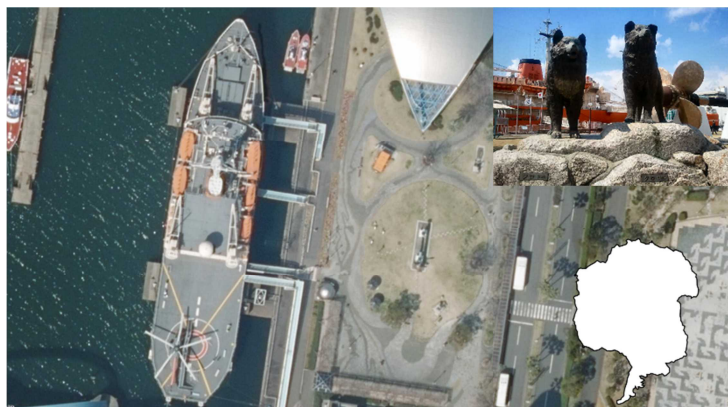
・今回は、南極観測船「ふじ」についてお話します。「ふじ」は名古屋港ガーデンふ頭に係留されています。体験型歴史的資料として見学することができます(有料)。名古屋港水族館の向かい側にありますので、見学したことはなくてもアラートオレンジの船体は見たことがあると思います。1965年に進水、1984年に退役しています。進水式は、いまの上皇后さまが行っています。命名者の一人として、知立市の三浦さんも出席されています。第7次南極地域観測から24次まで使用されました。



<南極観測船「ふじ」 名古屋港ガーデンふ頭>

・この観測船から既存の船の改造ではなく、当初から南極観測用の砕氷船として設計されています。運用(船を動かす人)は海上自衛隊となり、海上自衛隊でも初のヘリコプター搭載船になりました。「宗谷」の運用終了後、建造等に時間を要したため、南極観測を3年間中断しています。本格的な砕氷船のため、厚さ90センチまでの海氷は連続して砕氷しながら進むことができます。それより厚い海氷は、ラミング(前進と後進を繰り返して海氷に体当たりをして進む航法)で進みます。この航法を容易にするためスクリューの回転方向を簡単に換えられるようにディーゼルエンジンで発電をしてモーターでスクリューを回しています。昭和基地へ運べる物資は約500トンと増え、多くの観測ができるようになりました。

・あまり知られていない話として、「ふじ」の前にある芝生は、歪な形をしています。これは南極大陸の形をしています。よく探すと日本の基地もあります。「タロ・ジロ」の像もあります。樺太犬がとっても大きいことがわかります。



<名古屋港ガーデンふ頭 google map より>

・ちなみに、附中の元校長の仲井豊先生が、「ふじ」で南極へ行かれています。